

2014^{ねん}年10^{がつ}月

民俗 — No. 9

けんぱくものしりシート

からはし



こめ^{こめ}の^{しゅうかく}収穫で
刈^かり^と取^{いね}った^{いね}稲^のの
穂^ほ先^{さき}から^み実^{もみ}（^{もみ}）
を^と取^とる^こと^をを
だ^だっ^だこ^こく^く
脱^だ穀^だと^いい^いま^ます^す。

げん^{げん}ざ^ざい^い
現^{げん}在^ざ、^{こめ}お^こ米^めの^の
し^しゅう^しかく^{かく}
収^し穫^{ゅう}は^か刈^かり^と取^とり
か^だら^だこ^こく^く
から^も脱^も穀^み、^も糲^みと^わわ
ら^わく^わず^ずを^を分^わけ^ける^る
と^ところ^ろま^まで^で、^{コン}コン
バ^バイン^{イン}が^が全^{ぜん}部^ぶし

からはし

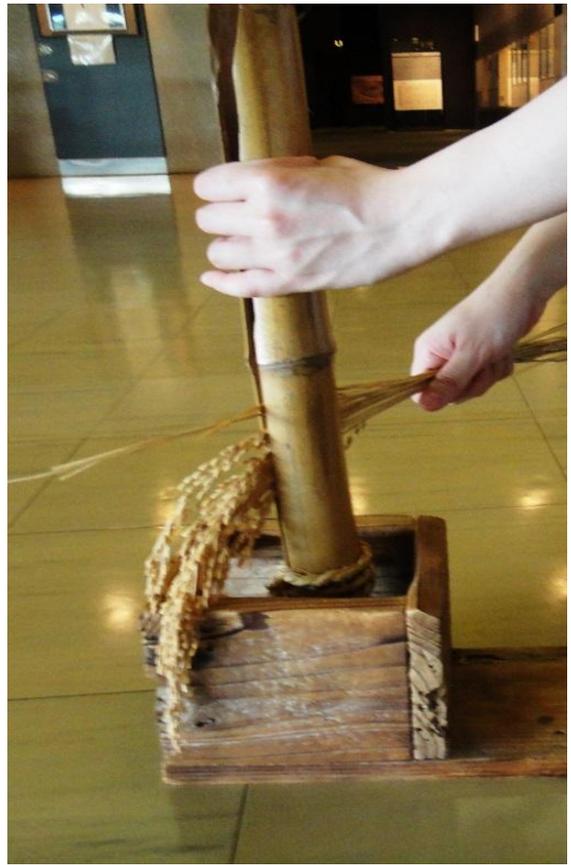
て^てく^くれ^れま^ます^す。そ^そん^んな^な便^{べん}利^りな^き機^き械^{かい}が^がな^なか^かっ^った^た時^じ代^{だい}、^も糲^もに^にす^する^るま^まで^での^のこ^これ^れら^らの^の作^さ業^{ぎょう}は、^おひ^ひと^とつ^つひ^ひと^とつ^つに^に多^たく^くの^の手^て間^まと^ひと^と人^{ひと}手^てが^が必^ひ要^{よう}で^でし^した^た。

コン^{コン}バ^バイン^{イン}を^を使^{つか}っ^った^た収^{しゅう}穫^{かく}で^では、
だ^だっ^だこ^こく^く
脱^だ穀^だを^をし^して^てか^から^らす^すぐ^ぐに^に糲^{もみ}を^を乾^{かん}燥^{そう}さ^させ
ま^ます^す。し^しか^かし^し、^{コン}コン^ババ^バイン^{イン}が^が登^{とう}場^{じょう}す
る^る以^い前^{ぜん}は^は刈^かり^と取^いっ^った^た稲^いを^を束^{たば}に^にし^して、
し^しば^ばら^らく^く田^たん^んぼ^ぼで^で日^ひに^に干^ほし^して^てか^から、
だ^だっ^だこ^こく^く
脱^だ穀^だし^しま^まし^した^た。上^うの^の写^{しゃ}真^{しん}は、^だそ^その^の脱^だ穀^だ
に^に使^{つか}わ^われ^れて^てい^いた^た原^{げん}始^{して}的^きな^な道^{どう}具^ぐ、『^かは^はし^し』
で^です^す。



刈^かり^と取^いっ^った^た稲^いを^を田^たん^んぼ^ぼに^に干^ほし^して^てい^いる^るよ^よう^うす

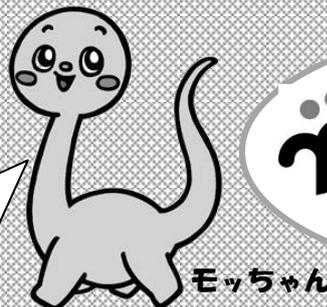
写真の『からはし』は、ふたつに割った
 竹を合わせて、一方をわら縄でしばって
 います。竹と竹の間に稲の穂先をはさんで
 引き抜くと、粃がパラパラと落ちるしくみ
 です。この『からはし』がいつ頃から使わ
 れるようになったのかはよくわかってい
 ませんが、江戸時代の中ごろに『千歯扱き』
 (下の写真)が登場するまでのかなり長
 い間、活躍していました(『千歯扱き』に
 ついては“ものしりシート民俗-No.4”を見
 てね)。



それにしても、この2本の竹のせまいすき間
 にはさむことができる稲は数本ですから、一度
 に脱穀できる量もわずかです。刈り取った大
 量の稲をすべてからはしで脱穀するとなると、
 今とは比べものにならないほどたくさんの人
 の手と時間と根気が必要だったことが想像で
 きますね。

参考にした本 『岩手県立博物館総合展示目録』 岩手県立博物館 1981年
 『ひとつの資料から 民俗-72 カラハシ』 岩手県立博物館 1987年

来月(11月)の
 けんぱくものしりシートは
 現勢・生物-9だよ!
 おたのしみに!



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>